

令和元年度自己評価取りまとめ

会議日 令和2年8月3日

参加者：理事長、教務主任、教務三人、事務局長

1. 学校の理念・使命・ビジョンについて

【意見】

- ・進学に特化しているということは明確に理解されている。
- ・社会ニーズ等を踏まえた学校の将来構想を公表できるようにしてもらいたい

- （学校の対応）今後も進学に強い学院のイメージを継続して行きたい。
- （学校の対応） 外国人材に対し進学だけでなく就職につながる支援ができるよう、将来構想も変革して公表できるようにしたい。

2. 組織運営・人事システムについて

【意見】

- ・情報システム化をさらに進めていくべきだと思われる。
- ・事務職員も能力向上のための研修等が必要ではないか
- ・新型コロナ感染症対応について、情報収集と対応を継続すべきではないか

- （学校の対応）今後教職員とも研修を実施し、人材開発を行っていく。
- （学校の対応）新型コロナ感染症対応については意見の通り情報収集とより良い対応を継続していく。

3. 学生指導について

【意見】

- ・昨年度にも引き続き、在校生に対しては社会人になるためのキャリア教育も施し大学・大学院進学選定のヒントも与える必要もあるのではないか
- ・卒業生のその後の歩みを検証して、当学院の日本語教育の良さ悪さを検証する必要があるのではないか（ある卒業生によると当学院の日本語教育は良い。大学院に進学した時に他の学生と比べると日本語ができていると評価してもらっているとのことである）

- （学校の対応）昨年年度にもまして学生に対してキャリア教育も含め進学に資する対応を実施していく。

4. 日本語指導について

【意見】

- ・どうしてもコミュニケーションの力がつきにくい。学生個々人に任せるしかないのだが何かいい方法を今後考える必要があるのではないか。進学時にもコミュニケーションが取れないと志望校合格は難しい。
- ・オンライン授業だけでは特にコミュニケーション力が向上しない。対面を増やすことも検討できないか。

- （学校の対応）勉強会等での授業の質を高める工夫を継続してほしい。
- （学校の対応）新型コロナウイルス感染症の予防をしながらの対面授業に関してはおのずと限界がある。個別にコミュニケーション力を向上するような対策をお願いしたい。

5. 学生からの評価について

【意見】

- ・わかりやすく、内容も適切との評価を得ているが、授業の狙いや補助資料については満足度が他に比べると低いようだ。
- ・日本語能力試験等の対策授業については学生アンケートからも一定の評価を得ている。

- （学校の対応）学生の満足度を上げる活動は常時していくようにする。
- （学校の対応）対策授業について、さらにより良くする必要がある。